

認定番号 62

樹種名	ガジュマル	科名	クワ科	方言名	ガジュマル	学名	<i>Ficus microcarpa</i> L.f.				
形状・寸法	樹高 10.2 m	胸高周囲 5.9 m	根本周囲 7.5 m	樹幹占有面積 114.9 m ²							
	枝下高 2.7 m	枝張 東 6.3 m 西 5.2 m	南 6.4 m 北 6.3 m	最大樹冠幅 12.7 m							
通称	照屋家のガジュマル		樹齢 110 年以上	所有者	1 国 2 県 3 市町村 4 その他公有 5 社寺 6 個人 7 会社 8 その他民有 9 不明 備考:平安座自治会所有						
所在地	南城市大里字大城2366			状況	1 単木 2 樹叢中 3 樹林中 4 その他						
立地場所	1 公園 2 庭園 3 個人の庭・屋敷 4 公共施設 5 学校 6 神社寺院 7 拝所 8 市街地 9 街路 10 その他			気象条件	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
保護制度	1 国指定天然記念物 2 県指定天然記念物 3 市町村指定天然記念物 4 景観重要樹木 5 保存樹 6 名木 7 その他 8 なし				平均気温(°C)	15.3	16.1	16.7	19.1	21.9	25.2
	周囲の状況	1 樹林 a 大面積山林 b 小面積山林 2 芝地 3 耕地 4 建物の間 5 道路 6 河川 7 湖沼 8 その他 (広場)			(最寄りの7 メーター)	風向	N	N	N	E	ESE
土地傾斜		1 平坦(0~5°) 2 緩(5~15°) 3 中(15~30°) 4 急(30~45°) 傾斜方向:			地点:系数	月	7月	8月	9月	10月	11月
	土壌	1 堆積土 2 切り土 3 盛土 4 客土 5 その他 ()			2014年	平均気温(°C)	27.4	27.0	26.8	23.4	20.6
基岩・母材					降水量(mm)	280.5	197.0	87.0	168.0	77.0	94.0
	地形	1 山地 2 丘陵地 3 台地 4 平地 5 尾根 6 中腹 7 谷 8 窪窪 9 カスト 10 埋め立て地 11 海岸段丘 12 その他			平均風速	5.9	4.1	4.2	7.7	6.2	6.8
土性		1 砂壤土:大部分が砂で僅かに粘土を感じる 2 壤土:砂と粘土が半々 3 埴壤土:大部分粘土で僅かに砂を感じる 4 埴土:ほとんど砂を感じない			風向	SSE	SW	SE	NNE	N	N
	根元及び周囲の植生	草本 1 密生 2 疎 3 なし 低木 1 密生 2 疎 3 なし			年平均気温	21.3 °C		最高気温	32.6 °C		
管理状況		1 柵 a 有 b 無 (有の場合の高さ m、材質() 柵内面積 (m ²) 設置年 2 支柱 a 有 b 無 3 剪定 a 強 b 弱 c 無 d 枝折等の都度処理 4 施肥 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類) 5 薬剤散布 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類) 6 解説板 a 有 b 無 7 避雷針 a 有 b 無 8 定期的な草刈・掃除 a 有 b 無 9 その他			潮風の影響	1 なし 2 ややある 3 ある 4 やや強く受ける 5 強く受ける(特記)					
	過去の治療歴と内容	大枝に切断痕→腐朽、枯れ等が発生の都度、処理していることが伺える									
故事来歴	1 無 2 信仰対象 3 禁忌(タブー) 4 祭事 a 有 b 無 5 いわれの内容 6 不明										
	視認性	1 遠方からも目立つ 2 近くに行けば見える 3 直前まで見えない 4 敷地内にはいるとよく見える 5 敷地内に入っても見えない (理由)									
特記事項	1 動物生息 a 有 b 無 (有の場合動物の種類) 2 着生植物 a 有 b 無 (有の場合植物の種類 ヒカゲタケ、オオタマウツクシ、ウスヒラタケ、キクラゲ) 3 見学・参観者 a 有 b 無 (有の場合その数) 4 その他 生徒・父兄等										

地上部の衰退度判定（認定番号62）

評価項目	評価基準				
	0	1	2	3	4
1 樹勢	旺盛な生育状況を示し被害が全く見えない	幾分影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状況が極めて劣悪である	殆ど枯死
2 樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが、自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊し、奇形化している	ほとんど完全に崩壊
3 枝の伸長量	正常	幾分少ないが、目立たない	枝は短くなり、細い	枝は極度の短小、シヨウガ状の節間がある	下からの萌芽枝のみ僅かに生長
4 梢や上枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い	著しく多い	梢端がない
5 下枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い、切断が目立つ	著しく多い、大きな切断がある	ほとんど健全な枝端がない
6 大枝・幹の損傷	なし	少しあるが回復している	かなり目立つ	著しく目立つ、大きく切断されている	大枝・幹の上半分がかけている
7 枝葉の密度	枝と葉の密度のバランスが取れている	0に比べてやや劣る	やや疎	枯死が多く葉の発生が少なく、著しく疎	ほとんど枝葉がない
8 葉の大きさ	葉が全て十分な大きさ	所々に小さい葉がある	完全にやや小さい	全体に著しく小さい	僅かな葉しかなく、それも小さい
9 樹皮の傷	傷はほとんどなし	穿孔・傷が少しあるがあまり目立たない	古傷がある	傷からの腐朽が著しい	大きな空洞、剥がれがある
10 樹皮の新陳代謝	樹皮は新鮮な色をしていて新陳代謝が活発	普通	樹皮に活力がない	著しく活力がない	樹皮の大部分が枯死
11 胴吹き・ひこばえ	枝は量が多く、胴吹きひこばえもない	枝葉量が多いが胴吹き又はひこばえもある	枝葉量が少なく胴吹き、ひこばえがある	枝葉量が極めて少なく、胴吹きひこばえが多い	枝葉量が極めて少なく胴吹き、ひこばえも少ない

衰退度 = 各項目の評価値の合計 / 11 (評価項目) = 1.09

衰退度判定基準

衰退度区分	I	II	III	IV	V
		0.8未満 良	0.8～1.6未満 やや不良	1.6～2.4未満 不良	2.4～3.2未満 著しく不良

倒木・枝折れ等危険度判定

項目	判定	安全	可能性あり	可能性高い	明らかに危険
通行者・建物等との位置関係		○			
根返り		○			
幹折れ		○			
大枝折れ		○			
中・小枝落下		○			
幹の傾斜の増大		○			
その他()					

土壌調査結果（認定番号 62）

全面コンクリートが張られているため、土壌貫入調査、土壌構造調査(土壌採取)ともに調査不可。

部位	所見	対応
土壌	・全面モルタルが敷かれている。	・樹勢に強い影響を与えていないが、今後、継続して観察を行う必要がある。
根	・古い根を新しい根が覆い、根株を形成している。 古い根の活力は乏しいが新しい根の活力は良好である。	・無し
幹	・気根が 2～3mの高さで切り揃えられおり、幹下部が極端にくびれ、強風に対して弱い樹形となっている。	・今後気根は切らずに、幹周り及び地中に誘導して支柱根に仕立てることが望ましい。
枝	・適宜剪定を行い、樹形は美しく保たれている。	・風圧を軽減するためにも、今後とも剪定はこれまで同様に行うことが望ましい。
	・剪定部位の局所からヒラタケ、キクラゲの発生が見られるが、概して腐朽は少なく、かつ軽度。	・腐朽枝の切除を検討する。
葉	・葉量・葉色とも良好	・無し
備考	・強風に対して弱い樹形となっている。岩盤上に生育するため根返りの可能性は低いですが、幹内部の腐朽が懸念されるため、支柱根を育成し、補強する必要がある。	

